

原発は54基、 でも動いているのは11基

3月11日に東日本大震災が起きる前、日本の電力の約30パーセントは、全国に54基ある原子炉で発電されていました。電気事業連合会のホームページは、「原子力発電は、資源の少ないわが国において電気の安定供給に大きく貢献している」とうたっています。

ところが2011年9月現在、54基の原子炉のうち、43基が運転停止中で、稼働しているのは11基です。停止の理由は、3・11の原発震災、3・11以後の政府指示、07年の中越沖地震、事故、定期点検などです。さらに残る11基も、2012年5月までには全てが定期点検で停止してしまいます。

政府は現在定期点検中の原子炉について、安全性が確認できれば再稼働を認める姿勢です。しかし、福島原発では未だに立ち入り調査も出来ず、事故原因は不明のままです。少なくとも福島原発の事故原因が究明されるまで、原発の安全性は確認しようがありません。点検中の原子炉の再稼働は無理なのです。原発に賛成か、反対かは別にして、来年5月には全ての原子炉が停止してしまうのです。

それでは原子炉が全て停止すると、どうなるのでしょうか。停電が頻発して社会が混乱し、産業も衰退してしまうのでしょうか。

来年5月には全原子炉停止、 日本の電気はどうなるの？

実は今年8月の時点でも、41基の原子炉が停止していました。政府は節電を呼びかけ、電力会社は早期の原発再稼働が必要であるとアピールしました。

経済産業省のホームページには、8月の電力使用量が掲載されています。最も電気が使われた日の使用量を合計すると、1億5651万キロワットです（沖縄を除く）。一方、電力供給量の合計は、各種資料によれば、約1億7800万キロワットでした。差し引くと8月のピーク時でも、約2100万キロワットの電力余裕があったのです。停電も起きませんでした。

8月以降に停止した原子炉2基と、これから停止する11基の発電量の合計は、約2100万キロワットです。8月ピーク時の電力余裕と同じです。数字上は原発が全て止まっても、ピークに対応できるようです。もっとも、安定して電気を供給するためには、10パーセント位の余裕が必要とのことですから、これでは停電が発生するかもしれません。

しかし日本の各地には、発電能力に余裕のある火力や水力の発電所があります。これらの発電所の稼働率を高めることで、電力にも余裕が生まれます。さらに、私たちが節電を進めれば、原発が停止しても電力不足を乗り切ることができるでしょう。

節電で円高のはずなのに、 8月の輸出は前年比プラス

今年8月の電力ピークを乗り切れたのは、みんなが節電に励んだからです。私たちがクーラーを我慢しましたが、企業が15パーセント節電を実現したことも大きいでしょう。しかし経済界からは、15パーセント節電では生産効率が上がらず、経済に悪影響を与えたとの声も聞こえてきています。

それでは、今年8月の経済はどうだったのでしょうか。朝日新聞インターネット版に、「8月の輸出、前年比2.8%増 震災後初のプラスに」という記事が掲載されました（9月21日）。今年の8月は停電だけではなく、過去にない円高が日本を襲いました。それでも輸出は昨年より伸びたのです。数字を見ると、節電が経済に悪影響を与えたとは思えません。

経済界や電力会社は、原発を再稼働させるために色々なことをいってきます。しかし騙される訳にはいきません。

皆さん、原発のない日本を実現するために、一緒に考え、行動しましょう。

(連絡先)